

令和4年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 総則

改善の重点

- ① 学校の教育目標の実現に向け、カリキュラム・マネジメントの三つの側面を通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に学校の教育活動の質の向上を図っていくこと。
- ② 編成した教育課程の実施に当たっては、GIGA スクール構想の下、各教科等の学習指導において ICT の特性・強みを生かした授業づくりを進めていくこと。

1 設定理由

中学校学習指導要領第1章第1「中学校教育の基本と教育課程の役割」において、「4 カリキュラム・マネジメントの充実」として次のように示されている。

各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下、「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

学校の教育目標を実現するためには、全教職員が適切に役割を分担し、相互に連携することが必要である。その上で、生徒の実態や地域の実情、指導内容を踏まえて効果的な年間指導計画等の在り方や、授業時間や週時程の在り方、加えてその評価や改善方策について、校内研修等を通じて研究を進めていくことが重要である。

また、中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」（令和3年1月26日）において、1人1台端末を活用した授業デザインの重要性が示され、GIGA スクール構想の下、各教科等の学習指導において ICT の特性・強みを生かした授業づくりを進めていくことが求められている。ICT 活用により指導の効果が高まる場面を見極めたり、指導者が意図をもって ICT を活用する場면을位置付けたりすることは、教科等横断的な教育課程の編成・実施により育成を目指す「学習の基盤となる資質・能力」や「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」などを育む観点からも重要である。以上のことから、上記①②を改善の重点とする。

2 研究を進めるに当たって

(1) 研究を進めるに当たっては、以下の点に留意すること。

- ①学校の教育目標の実現に向け、教科等横断的な学習を充実させるための教育課程の編成の工夫や配慮すべき点（ICT を活用した授業づくりを含む。）について明らかにすること。
- ②学校の教育目標とのつながりを意識した教育課程の検証・改善を確実に行う PDCA サイクルの構築の工夫や配慮すべき点について明らかにすること。
- ③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるために必要な人的、物的な体制の確保及びその改善（ICT 活用を含む。）における工夫や配慮すべき点について明らかにすること。

(2) 参考とすべき資料

- ①これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの手引き
(URL:<https://www.pref.oita.jp/soshiki/31810/kari-mane-tebiki2.html>)
- ②単元配列表（小中学校：<https://www.pref.oita.jp/soshiki/31810/>>教育課程の編成）
- ③学校全体で組織的に進めるカリキュラム・マネジメント（改訂版）
(URL:<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2031799.pdf>)
- ④各教科等の学習過程を踏まえた ICT 活用ハンドブック
(URL:<https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/ict-handbook.html>)